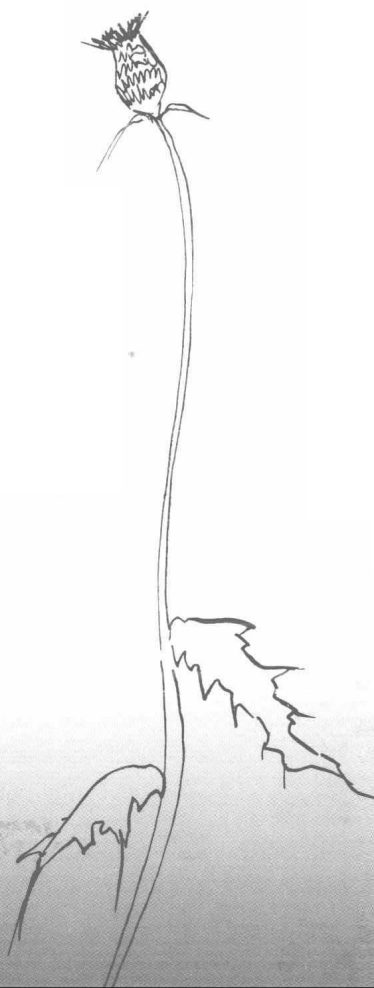


[愛子の新・女の格言]

佐藤愛子



の新・女の格言



初出紙誌



愛子の格言(新・女の格言を改題) 家庭画報

昭和55年2月号～12月号

愛子の躁鬱日記 報知新聞

昭和54年5月15日～10月13日

愛子の旅の手帖 旅の手帖

昭和55年9月号～昭和56年8月号

目次

愛子の格言…………… 7

女は強し、されど母は弱し…………… 9

女よ、大志を抱け！…………… 16

近くて遠きは男女の中…………… 23

何もせぬ人正しい人…………… 30

弱者は強し…………… 36

強者は弱し…………… 43

美醜は糾あやなえる縄のごとし…………… 49

狐の威を借る虎…………… 55

敗軍の将は兵を語る…………… 61

粉糠こなぬか三合あつても婿に行く…………… 67

さわらぬ神にたたりあり…………… 74

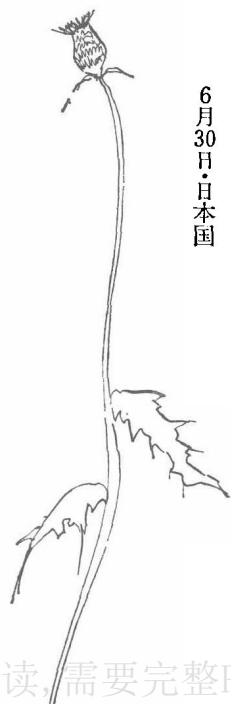


愛子の躁鬱日記……………81



5月15日・女心
5月16日・むずかしいお話
5月17日・告訴ごっこ
5月18日・天命ヲ知ル
5月19日・現代版フシ死
5月21日・どこまでつづく
5月22日・オドシ教育
5月23日・坊さんの苦心
5月24日・どうして病
5月25日・うるさがた
5月26日・恐妻家
5月28日・かなしい話
5月29日・女の夢
5月30日・ところ変れば
5月31日・鈍感の幸福

6月1日・反省
6月2日・新聞記者
6月4日・コメント
6月5日・ご苦労さん
6月6日・優越感
6月7日・高度成長したわけ
6月8日・むつかしい世の中
6月9日・ああ、オトコノ
6月11日・親の今昔
6月12日・金魚の泣き
6月13日・初老の心
6月14日・言葉は正確に
6月15日・主婦心
6月16日・自尊心
6月18日・父の日



6月19日・ロマンチスト
6月20日・珈琲考
6月21日・ニコリ笑って……
6月22日・エリート考
6月23日・習慣
6月25日・名前のつけ方
6月26日・名前の変え方
6月27日・ご時世
6月28日・こわい話
6月29日・親は何でも知っている
6月30日・日本国

7月2日・枕のとき
 7月3日・忘れ者
 7月4日・坊主顔
 7月5日・聞くも涙の物語
 7月6日・相手による
 7月7日・チガイがわかる
 7月9日・お静か
 7月10日・己を知る
 7月11日・歎心いろいろ
 7月12日・叱り絵
 7月13日・姑子供
 7月14日・遠藤式禁煙法
 7月16日・ご機嫌の人
 7月17日・不自由な話
 7月18日・出家犬
 7月19日・淑女の笑い
 7月20日・進歩的女性

7月21日・三ツ子の魂
 7月23日・努力のしどころ
 7月24日・宗薫の怒り方
 7月25日・評論家の幸福
 7月26日・分析時代
 7月27日・言葉について
 7月28日・權威に弱い
 7月30日・失礼
 7月31日・名前のつけ方
 8月1日・しつかりせえ
 8月3日・平和主義者
 8月4日・聞くも涙
 8月6日・語るも涙の物語
 8月7日・涙乾くともなく
 8月8日・小説とは
 8月9日・近所迷惑
 8月10日・敵母われ

8月11日・心構え時代
 8月13日・喜劇料理
 8月14日・もてる考
 8月15日・今米コ論議
 8月16日・人間味
 8月17日・侮辱
 8月18日・無邪気
 8月20日・弱きもの
 8月21日・現代特攻隊
 8月22日・心にしみる話
 8月23日・見かねる人
 8月24日・浦河風？
 8月25日・偕老同穴
 8月27日・むつかしい要求
 8月28日・進歩的男性
 8月30日・父親の結論
 8月31日・殿サマ魚屋



9月1日・スリの親戚

9月3日・助ッ人登場

9月4日・肩書

9月5日・現代風俗

9月6日・ヤクルトの苦勞

9月7日・隠れジャイアンツ

9月8日・新時代きたる

9月10日・反省

9月11日・立て札

9月12日・亭主代り

9月13日・アルバイト考①

9月14日・アルバイト考②

9月15日・アルバイト考③

9月17日・仲間

9月18日・ラクな人

9月19日・不思議だなア

9月20日・センセエ

9月21日・退屈せず

9月22日・客観性

9月24日・無知

9月25日・めてたい めてたい

9月26日・大モノになるには

9月28日・解決のしかた

9月29日・心の友

10月1日・ヒマ人

10月2日・喜劇にあらず

10月3日・日本人の顔

10月4日・ONの競争

10月5日・日本でた二人

10月6日・考えよう

10月8日・動物愛護

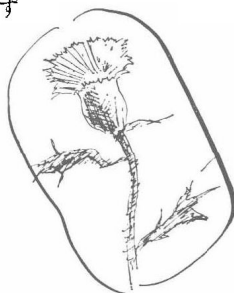
10月9日・猫の気持

10月10日・豪華ヨット

10月11日・アワレとは

10月12日・良縁

10月13日・引つ込み時



愛子の旅の手帖……………211

アドヴァイス……………213

「大胆」について……………219

難行苦行……………225

日本人の顔……………231

年寄りの旅……………236

旅の怪……………242

靈魂の腕くらへ……………247

深夜のすすり泣き……………253

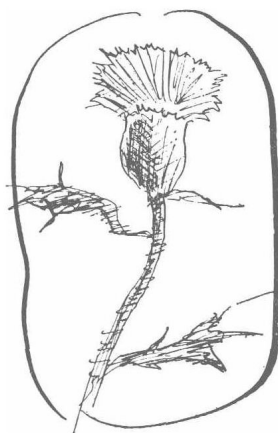
私の行く先どこですか……………259

赤城の思い出……………264

とうもろこし旅行……………270

旅情について……………276

初出紙誌……………284



アートディレクション
イラストレーション
ブックデザイン

長友啓典
黒田征太郎
林久美子十K2

愛子の格言

女は強し、されど母は弱し

女は強くなった、という言葉は、男は弱くなったという言葉と同様に、殊更にいう時代ではなくなつた。強いのが当たり前になつてしまつたのである。

丁度ここまで書いたとき、机上の電話が鳴つて、スポーツ新聞がコメントを求めて来た。私はこのマスコミのコメントなるもの、大嫌いである。

「今日、国際女子マラソン大会が行なわれたのをご存知ですか？」

「いいえ、知りませんが」

実は知っていたのだが、面倒くさいのでそういつた。

「女性が……主婦や母親が四十キロを走ったんですがね、女が四十キロ走らうってことは今まで無理だとされていたんです」

「はあ、そうですか」

「それで、それについて何か感想があれば聞かせていただきたいのですが」

「感想なんて別にありませんが」

新聞記者というものは、人はすべての現象に対して一から十まで感想を抱きつつ暮しているものと思ひこんでいるらしい。それが甚だ迷惑である。

「しかし、これまで四十キロは無理とされていたのを、やすやすと走るようになったというのと……それをどうお思ひになりますか」

「はあ、それは結構でした。よかった、よかった……そんな風に思います」

相手は呆れてアハハ、と笑って電話を切ってしまった。多分、相手はここで、もう男なんぞに負けませんわヨ、女の底力、この通り、やがて女が男を制する日も近いでしょうよ！ というようなコメントを期待していたのであろう。

だがそんなことは今更、いう気はない。感想としては陳腐である。女が何かしたといつてはいちいち驚いてはいられないのである。

女が強くなったのは、ありや、男女共学という制度がいけないんです、と懔然たる面持ちでいた男性がいる。小学校、中学、高校、大学まで、成長期の十六年間に「マメイリ」で暮して来た。昔、女は弱く、男は強く、女は無能で男は偉かった時代は、男の子と女の子が一緒にいると、「オトコとオンナが豆炒^{トイリ}！」

と云つて囃し立てられたものだった。その場合、恥をかくのは女の子ではなく男の子の方である。男子たるものが、女なんぞと遊んでいるのは、ライオンが鼠ねずみと仲よくしているようなもので、そんなことはライオンの沽券こけんにかかわったのである。

男は女と別様に育てられた。電車通学の中学生と女学生は、乗降口も前、後、と別れていた。電車の中でも豆炒で乗ってはならない。男は前方、女は後方、と決められていた。

従つて女は男に憧れ、男は女に夢を抱いた。お互いに正体がどんなものであるかわからないので、イリュージョンを抱き合い、男は雄々しく、女は優しいものと思ひこんでいた。

ところが男女共学、十六年間も豆炒となった。

いかに男というものは意気地なしであるか、カッコをつけたがるか、バカけているか、不マジメであるか、秀才は秀才なりにおかしく、劣等生は劣等生なりにおかしい。そんな男のすべてを、くまなく女は見た。見たいと思つて見たわけではない。毎日の暮しの中で、いやでも見てしまつた。

「女の利口より男のバカの方がいい」

などという俗言を、女たちが正直に信じていた時代は過ぎ去り、

「男の利口より女のバカの方がいい」

といい合つたりするようになったのも、この豆炒のためである。

一方、男の方も同様である。嫺々じようじようと美しきものであつた筈はずの女は、荒々しく猛たけく、イジワル、美人は美人なりに厄介で、不美人は不美人なりにまた厄介である。

お互いに正体を見、見られてヤケクソになり、イリュージョンは微塵みじんと碎けた。

男は聳そびえるのをやめ、女は体裁つけるのをやめた。お互いにラクな姿勢でやって行こうということになつたら、その結果として女は強くなつたのである。

その男性はそう語り、しかし、いいことじゃないですか、これはいいことです、とひとり肯うなずいていうさまは、何やら自分自身にいいきかせようとしているかのように見えたのだつたが……。

ところで昔、「中江藤樹なかえとうじゆの母」という賢母がいた。中江藤樹が勉学のために家を離れて都に出たが、雪の夜、あまりの辛さに帰つて来た。すると藤樹の母はその意志の薄弱なることを憤り、いたく叱責しつせきして雪の中を追い帰した。

「そうして中江藤樹は近江聖人おうみと呼ばれ、母に孝養を尽す立派な人になりました」と昔は小学校の修身で教つたものだ。

女は強くなつたけれども、このような母親はどこを探しても見当らなくなつた。

皺ひなを鷺わしから守ろうとして羽の下にかき抱き、己は犠牲になつたメン鷄どりのような母親もあまり聞いたことがない。

子供が病気になると、会社の夫に電話をかける。オタオタして医者へと走る。ふだん仲の悪い姑しゅうとめに来てもらう。子供がテレビとマンガばかり見て勉強しないといつては、学校の先生に相談に行く。子供が勉強しているというとき夜食を作って部屋まで持っていく。食べかたが少なかったといつては、味つけが下手だったのか、材料が悪かったのかと心配し、ごめんなさいね、これから気をつけるわと謝る。

子供に異性からの手紙が来たり、電話がかかって来たりすると、うろたえて教育評論家に相談の電話をかけ、

「ほうっておいてよろしいんでしょうか、それとも、問いただした方がいいでしょうか、主人はもうたよりなくて、わたくし、どうしたらいいか……」
と泣き声になったりする。

女は強し、されど母は弱し。

母は弱いがされど妻は強い。

「月給袋は袋ごといただきますよ」
と宣言し、

「はい、今月分のお小遣い」

と稼ぎ手の夫に金を与え、

「あなた、残業手当はごま化してないでしょうね」

と詰問し、会社の経理課へ問い合わせの電話をかけ、貯金通帳のハンコはしっかりと自分が握り、子供がいうことをきかないと、

「あなた、少しはいつて下さいよ！」

とイヤなことは夫に押しつけ、ついに非行化しかけると、

「父親が悪いからこういうことになったのよ。お酒ばかり飲んでるから」

と夫が楽しみの一日二合の晩酌をやめさせ、

「あのネ、子供にかこつけて、お酒、やめさせてやった、ク、ク、ク、」

などと隣の奥さんと二人で喜んでいる。

まあ、長年にわたって男の横暴、思い上りのもとに泣いて来た幾万の女性を知っている私などは、こういう図を見ると、

「ヤンヤ、ヤンヤ、おもしろい、おもしろい！ もっとやれェー」

と喜ぶ方ではあるけれど、欲をいえば、母親としても、もうひとふんばり強い母親になれぬものか。